

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12831

研究課題名（和文）医療資源の分配における公正性 通時的観点から

研究課題名（英文）Distributive Justice in Healthcare: Lifetime or Lifespan?

研究代表者

保田 幸子 (Yasuda, Sachiko)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・特任研究員

研究者番号：60774776

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ライフステージや年齢が影響を及ぼす健康問題も考慮するべく、時間の観点を中心として医療資源の公正な分配の基準を明らかにすることである。この目的のもと、分配の基準の理念となる頑健な十分主義の提示、不確実性下における公平性の追求に関する論点の抽出、年齢基準に関する問題点の整理とその応答などの成果を上げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の成果が持つ学術的意義は、二つにまとめられる。第一に、本研究は公正性の理念として批判に頑健な十分主義を提案し、この立場の理論研究に貢献した。第二に、パンデミック下におけるフェア・インギスの正当化論を提案した。特に第二点目は、希少な医療資源へのアクセスの優先順位について混乱たや対立が生じた際の理論的基盤を提供するものであり、これが本研究の社会的意義であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to propose criteria for the fair distribution of medical resources from a temporal perspective, considering health issues influenced by life stages and age. After three years of research activities, the project achieved the following outcomes: proposing a robust sufficientarianism as the guiding principle for distribution criteria, exploring key points regarding the pursuit of fairness under uncertainty, and responding to critics of the fair innings argument.

研究分野：倫理学

キーワード：平等 分配的正義 十分主義 分配理念 パンデミックの倫理 いつの平等か

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 分配的正義論は、希少財の分配に際し公正性を追求する学問分野であり、応用的課題への射程の拡大も進んでおり、健康・ヘルスケア問題もその一つである。特に、COVID-19 感染者拡大による医療危機において、人工呼吸器や ECMO などの救命装置が足りなくなった際にどの患者を優先するか、ワクチン接種の順番をどうするべきかなど、優先順位における公正性が問われた。したがって、医療資源の公正な分配を検討し、医療政策への規範的指針を提供することが倫理学者に期待されている。

(2) 特に、健康・ヘルスケア問題については、ライフステージや年齢が影響を及ぼすため、「いつの平等か」の論点からの検討が求められる。研究開始当初、個人の年齢やライフステージといった生涯における変化を射程に入れた公正な分配に関する議論が進展していた。そこで、医療資源の分配における公正な基準において、時間の射程をどの程度にするべきかを検討することを研究課題とした。

2. 研究の目的

(1) 「研究開始当初の背景」の認識のもと、分配的正義論の学問的蓄積を踏まえて医療資源の公正な分配の基準を明らかにすることが本研究の目的である。その際、人々のウェルビーイングを考慮する時間射程を全生涯だけでなく、ライフステージや年齢を考慮した公正さの基準の提案を試みる。

(2) この目的を追求するために、本研究では次の論点からアプローチした。
選択の結果としての疾病は個人の責任であるのか？（運の平等主義における時間の検討）
いつの「平等」でいいのか？（分配理念の如何）
いかなる時間射程で医療資源の分配を求めるべきか？（「いつの公正性か？」）

3. 研究の方法

(1) 政治哲学・倫理学のアプローチから、上記の課題を段階的に検討していった。研究期間の初年度は、運の平等主義に基づく医療資源の分配の検討に注力した。運の平等主義に基づく医療資源の分配は、当人の選択の結果としての疾病を放置するとの批判もある。それに対して、時間軸を考慮することで批判を回避可能かを検討した。これと並行して、分配理念論争の医療資源分野への応用的研究やフェア・イニングス論を網羅的にレビューした。

(2) 2022 年度は、分配的配慮の有力な原理の一つである十分主義を取り上げ、批判に頑健な十分主義の提案し、研究成果を論文化した。時間的観点については、フェア・イニングス論を検討し、研究報告をおこなった。

(3) 2023 年度は、フェア・イニングス論の正当化に関する研究を論文化した。また、ウェルビーイング概念に関する文献調査をし、研究報告をおこなった。

4. 研究成果

(1) 2021 年度は、運の平等主義に基づく医療資源分配を検討した。運の平等主義に基づく医療資源の分配は、当人の選択の結果としての疾病を放置するとの批判もある。それにたいして、時間軸を考慮することで批判可能かを検討した。また、理論的研究として、批判に頑健な十分主義の提案をおこなった。平等主義や優先主義は、格差の縮小を正しいとみなすが、十分主義は、各人の福利が閾値を上回ることを目指すので、平等を目指すかについては見解に幅がある。十分主義のうち、閾値を超えた福利について関知しないものについては、不平等を容認するのはもっともらしくないと批判が向けられている（無関心批判）。本研究は、こうした批判にたいする十分主義の応答を評価し、十分主義は平等を目指すべきかを明らかにした。本研究は、この批判への応答を、ピグー＝ダルトン条件を満たすことで批判を回避するものと、複数の閾値により批判の力を弱めるものに分け、後者を支持する。そして、十分主義は、平等への内在的関心を持たなくとも、義務論的要請から実質的不平等の是正を求めることができると結論付けた。

(2) 2022 年度は、前年度の十分主義に関する研究を査読付き論文として刊行した。また、パンデミック発生時の治療の優先順位の指標として年齢を用いて若年者を優先してよいかどうかを検討した。若年者優先はフェア・イニングス論から正当化できる。そこで、フェア・イニングス論の有力な背景理論として、員数説、生存年数説、人生全体説をとりあげ、パンデミック発生時

の若年者優先の妥当性を明らかにした。この研究成果は、東京大学社会科学研究所第4回若手研究員の会で報告した。

(3)2023年度は、フェア・イニングス論に関する研究成果を査読付き論文として刊行した。また、当初の計画とは異なり、ウェルビーイング論の収集と検討をおこなった。哲学におけるウェルビーイング論は、分配的正義論における財の本質とはなにかを問うてきた。これについて、アナ・アサクサンドロワは、哲学におけるウェルビーイング研究について、「ウェルビーイングの科学を価値適合的」にすべく、高次の理論から中レベルの理論へ転換の重要性を指摘している。すなわち、ウェルビーイングの三つの立場、すなわち、ウェルビーイングの本質は快楽か欲求充足か客観的リストかという問いが問うているウェルビーイングとは、すべてを考慮した包括的概念としてのウェルビーイングである。しかし、ウェルビーイングの概念は文脈により多様である。したがって、目下問われているウェルビーイングの種類 ウェルビーイングが問われている対象者とそれを問う者との関係 対象者の状況の改善可能性の三点に敏感であらねばならない。こうした彼女の提案を検討することで、分配的正義論における福利の位置を確認することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 保田幸子	4. 巻 2021
2. 論文標題 十分主義は不平等を容認するのか：無関心批判への応答	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法哲学年報	6. 最初と最後の頁 202-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保田幸子	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 若年者の治療を優先するべきか？ パンデミック下でのフェア・イニングス論の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 CBEL Report	6. 最初と最後の頁 29-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 保田幸子
2. 発表標題 年齢による医療資源へのアクセス制限は認められるのか？ アウトブレイク下でのフェア・イニングス論の検討
3. 学会等名 東京大学社会科学研究所第4回若手研究員の会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保田幸子
2. 発表標題 ウェルビーイング概念は1つなのだろうか？ - 規範理論と実証研究における接点を考える
3. 学会等名 オンライン政治理論研究会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------